

プレスリリース

第2回船舶安全設計国際会議（通称:Design for Safety）開催
（正式名称: 2nd International Maritime Conference on Design for Safety）
(<http://msweb.marine.osakafu-u.ac.jp/~g0001/index.htm>)

大西洋で処女航海中に氷山に衝突して沈没し、たくさんの犠牲者を出した客船「タイタニック」の沈没事故を契機に、船舶の安全性を確保するための国際条約 SOLAS が作られました。この条約は、新型船の出現や、船の大型化・高速化等の進展に伴って、国連の専門機関である国際海事機関 IMO(本部:ロンドン)において常に見直しが行なわれています。

安全性確保のためには、それなりの費用が必要となります。しかし安全を重視しすぎると経済性が損なわれ、実用的でない交通機関になってしまいます。すなわち、安全性と経済性は常に相反する関係にあり、そのバランスをいかにとるかがあらゆる交通機関の設計時に求められてきました。特に、船は非常に厳しい自然環境の中で、安全に、かつ経済的に運航されなければならないので、厳しい要求がつけつけられています。日本の貿易貨物の 99.7%は船で運ばれており、その安全性を確保することは、日本にとってもまさに死活問題なのです。

最近、船の世界では「安全性のための設計」というコンセプトが提唱され、安全性をより積極的に「品質」としてとらえ、品質のよい船を建造・運航することによってより多くの顧客を引きつけて経済競争を勝ち抜こうという機運が高まっています。

このように情勢を受けて、第1回目の船舶安全設計国際会議(通称:Design for Safety)が1999年にグラスゴー(英)で開催され、その第2回目が、中世の港湾都市である堺において、本年10月27~30日に開催されることになりました。会場は、堺の旧港に面してたつりーガロイヤルホテル堺。

本会議は、(財)シップ・アンド・オーシャン財団の平成16年度海外交流基金により実施されるものであります。その主催は、大阪大学大学院工学研究科船舶海洋工学専攻と大阪府立大学大学院海洋システム工学分野、共催シップ・アンド・オーシャン財団で、国内の数多くの海事関連団体から協賛を頂いています。

この国際会議では、国際海事機関の要人や、世界各国の海事規則に関わる関係者、安全性に関する研究者、船の設計技術者、船の運航者が一同に集まって、次世代の安全性を重視した船舶設計の在り方を議論します。参加者は約150名を予定。

基調講演としては、国際海事機関(IMO)の海事安全委員会(MSC)議長のトム・アラン氏、同じく復原性・満載喫水線・漁船安全性小委員会(SLF)議長のアレクサンダー・カラカントス氏などが、最近の海事関連の国際規則について、その傾向と将来展望について話をします。また、招待講演、一般講演を含め、安全性に関する考え方、安全設計に関する方法論、船舶の復原性と転覆、構造強度、火災・爆発時の安全性、運航上の安全性に関する30件余りの講演が予定されています。

この件に関するお問い合わせは、
第2回船舶安全設計国際会議・実行委員長 池田良穂
(大阪府立大学大学院 海洋システム工学分野教授)
Tel.072-254-9343, Email: ikedam@marine.osakafu-u.ac.jp

(次ページに、会議案内(日本語バージョン)を添付します)

第 2 回船舶安全設計国際会議

“ 2nd International Maritime Conference on DESIGN FOR SAFETY “

開催のお知らせ

主催 大阪大学船舶海洋工学専攻・大阪府立大学海洋システム工学分野
シップ・アンド・オーシャン財団

<http://msweb.marine.osakafu-u.ac.jp/~g0001/index.htm>

近年、船舶の安全を確保するため、国際海事機関(IMO)や欧州を中心に「安全のための設計」という理念が提唱され、船舶の安全を確保するための新しい流れとなりつつあり、その趣意は、従来のような安全と経済性のトレードオフではなく、安全を品質として捉えようという発想であります。こうした動きの端緒となったのは、1999年に英国で開催された船舶安全設計国際会議でありました。この度、第2回の会合が日本で開催され、IMO 海事安全性委員会議長をはじめとし、現在 IMO において国際的な安全基準制定の作業に携わっておられる各国の代表などをお招きし、船舶安全設計に関する様々な観点からの最新の国際基準などについての講演を行います。関係各界からの多数の方にご参加頂きたいと存じます。

日時： 2004年10月28日(木)～30日(土) 9:00～18:00
(10月27日：登録およびレセプション)

場所： リーガロイヤルホテル堺 〒590-0985 大阪府堺市戎島町 4-45-1
TEL:072-224-1121
南海本線堺駅前 <http://www.rihga-sakai.co.jp>

基調講演： Mr. Tom Allan、IMO 海事安全性委員会(MSC)議長
Capt. Alexander D. Carcatzos、IMO 復原性・満水喫水線・漁船安全性省委員会(SLF)議長
Mr. Paul Cojeen、米コーストガード安全基準課代表
都藤幸雄、日本海事協会副会長
Prof. Dracos Vassalos、船舶安全設計会議国際組織委員会委員長、英ストラスカイト大学教授など。

一般講演 安全設計に関するフィロソフィー / 安全設計に関する方法論 / 船舶の復原性 / 構造強度 / 火災・爆発時の安全性 / 運航上の安全性に関する講演(約 25 件)

参加費用： 早期登録(2004年8月31日まで) 一般 30,000円 学生 10,000円
登録(2004年9月1日以降) 一般 40,000円 学生 12,000円
振込先 三井住友銀行 中もず支店 (普) 0593253
口座名 デザイン フォー セーフティー実行委員会 委員長 池田良穂

参加申込： 下記事務局までお問い合わせ下さい。
〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1
大阪府立大学大学院海洋システム工学分野 池田研究室
Tel:072-254-9343 Fax: 072-254-9914
e-mail: office_IMDS@marine.osakafu-u.ac.jp

(財)シップ・アンド・オーシャン財団の平成16年度海外交流基金による事業